

JIA

株式会社 ジャパンインベストメントアドバイザー

< 証券コード: 7172 >

2017年12月期上半期決算概況と 今後の経営戦略

2017年8月2日



東京都千代田区霞が関三丁目2番1号
霞が関コモンゲート西館 34階
<http://www.jia-ltd.com>



目次

1. 会社概要	P.3～7
2. 業績ハイライト	P.8～12
3. 2017年12月期上半期決算報告	P.13～16
4. 2017年12月期通期業績予想	P.17～20
5. 直近の主なトピックス	P.21～25
6. 株主還元	P.26～28
7. 成長戦略	P.29～31
8. 参考情報	P.32～36

1. 会社概要



経営理念

金融を通じて社会に貢献する企業でありつづける

● ● ● 経営理念実現のために ● ● ●

株主様へ

確実かつスピード感のある継続的な成長を目指し、企業価値の増大を通して株主様に貢献します。

お客様へ

お客様からの支持・信頼を原点とし、当社の提供する金融商品・サービスを通じて、企業、個人の繁栄に貢献するように努めます。

お客様・
ビジネス
パートナー様へ

ビジネスパートナーの支持・信頼を得て、ともに社会的責任を果たし、成長することを目指します。

役職員へ

役職員一人ひとりがプロ意識を持ち、持てる力をフルに発揮出来る環境作りに取り組みます。
自由闊達、クリエイティブで新しいことにチャレンジすることを重視する組織・企業風土を大切にします。

会社概要

JIA

株式会社ジャパンインベストメントアドバイザー



社名	株式会社ジャパンインベストメントアドバイザー
本社所在地	東京都千代田区霞が関三丁目2番1号 霞が関コモンゲート西館 34階
代表者	代表取締役社長 白岩 直人
設立	2006年9月(決算期:12月)
事業内容	金融ソリューション事業、メディア関連事業
資本金	4,210百万円 ※2017年7月25日増資により変更
上場市場	東京証券取引所 マザーズ(証券コード:7172)
常勤役員数	52名(単体)、81名(連結)(平成29年6月末現在)
営業拠点	東京本社、西日本支社(大阪)
取引金融機関	みずほ銀行、三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、りそな銀行、千葉銀行、第四銀行 他44行 ※平成29年6月末現在の上位6行を記載。
主な株主	白岩直人 日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9) 株式会社こうどうホールディングス 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) GOVERNMENT OF NORWAY ※平成29年6月末現在の上位6位(シェア75.32%)を記載
主なグループ会社	JPIリースプロダクツ&サービシズ株式会社(オペレーティング・リース事業) 株式会社日本証券新聞社、株式会社日本証券新聞リサーチ(メディア関連・IR支援事業) フィンスパイア株式会社(コンテナ・オペレーティング・リース事業)(2017年3月CAIJ株式会社から商号変更) 株式会社ジャパンM&Aアドバイザー(M&Aアドバイザー事業) Arena Aviation Partners B.V.(航空機リースアレンジメント、リースマネジメント、機体再販業務) ※P.35 グループ会社概要参照(平成29年7月末現在)
監査法人	優成監査法人

2006年	9月	株式会社ジャパン・インベストメント・アドバイザーを設立
2007年	1月	CAIJ株式会社(現フィンスパイア株式会社)を米国CAI International, Inc. (NY証券取引所上場)と合併で設立
	2月	M&Aアドバイザー事業に参入
2011年	8月	JPリースプロダクツ&サービスズ株式会社を設立
2013年	12月	JPリースプロダクツ&サービスズ株式会社が海上輸送用コンテナを対象としたオペレーティング・リース事業に参入
2014年	5月	株式会社ジャパンインベストメントアドバイザーが太陽光発電事業の第1号ファンドの組成・販売を開始
	9月	東京証券取引所マザーズに上場
	12月	投資銀行本部設置
2015年	2月	西日本支社(大阪市)開設
	8月	プライベート・エクイティ投資事業の開始(第1号案件:株式会社NMPスペシャリスト)
	9月	株式会社日本証券新聞社及び株式会社日本証券新聞リサーチの全株式を取得。メディア関連・IR支援事業の開始。
	10月	パーツアウト・コンバージョン事業の開始 船舶対象のオペレーティング・リース事業に参入
	11月	JIALルクセンブルクを設立 Valliere Aviation S.A. (現Vallair Capital SAS)との資本・業務提携(出資金額:優先株2.5百万ユーロ、約325.3百万円) 株主優待制度の導入
	12月	IPOコンサルティング事業の開始 株式会社ジャパNM&Aアドバイザーを設立
2016年	3月	CAIJ株式会社の全株式の取得(子会社化)(現フィンスパイア株式会社)
	4月	新株式の発行及び株式売出しの実施
	8月	PCIホールディングス株式会社との「Fintech領域における業務提携」に関する覚書の締結
	9月	Vallair Capital SASへの追加出資(出資金額:優先株2.5百万ユーロ、約282.1百万円)
	11月	東京証券取引所の貸借銘柄に選定
	12月	株式会社インタートレードの株式の取得(取得株式数:60万株、発行済比率:8.06%)
	1月	Fits横濱株式会社への出資とIPOコンサルの受託(2月) 株式会社テクノプランへの出資
2017年	3月	Vallair Capital SASへの追加出資(出資金額:優先株2.5百万ユーロ、約299百万円)
	5月	合併事業会社(株式会社イーテア)を設立
	6月	ボーイング737MAX8、10機発注のための覚書締結(リストプライス総額:約11億2千万ドル相当、約1,232億円)
	7月	Arena Aviation Partners B.V.の株式を取得(取得株式数:4,900株) 新株式の発行及び株式売出しの実施

事業内容

事業の3本柱

オペレーティング・リース事業



パーツアウト・ コンバージョン事業

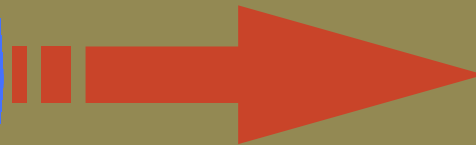


環境エネルギー事業



ビジネスマッチング契約
 全国の会計事務所
 (提携数:105事務所)
 金融機関(地銀等・証券会社)
 (提携数:53機関)
 合計158件

金融ソリューション事業



事業領域の拡大

M&Aアドバイザー事業



プライベート・エクイティ投資事業



人材ビジネス



ウェルス・マネジメント事業

IPOコンサルティング事業



メディア関連・ IR支援事業



ITビジネス



不動産投資事業



2. 業績ハイライト

2017年12月期上半期 業績ハイライト

- ◆ 航空機中心に出資金販売※は順調。(前年同期比210.4%増加)
- ◆ 売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益いずれも対前年同期比大幅増収・増益を達成。

【百万円】	2016年 上半期	2017年 上半期	対前年同期 増減	対前年同期 増減率 (%)	2017年12月 通期(予想)	進捗率 (%)
	実績(連結)	実績(連結)				
売上高	2,353	3,256	903	38.4%	7,700	42.2%
営業利益	628	1,785	1,156	183.8%	3,700	48.2%
経常利益	417	1,577	1,160	278.0%	3,400	46.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	225	885	659	292.6%	2,100	42.1%
出資金販売額	6,604	20,500	13,896	210.4%	—	—

※金融商品取引法第2条第2項第5号に掲げる権利としての匿名組合出資持分の譲渡です。

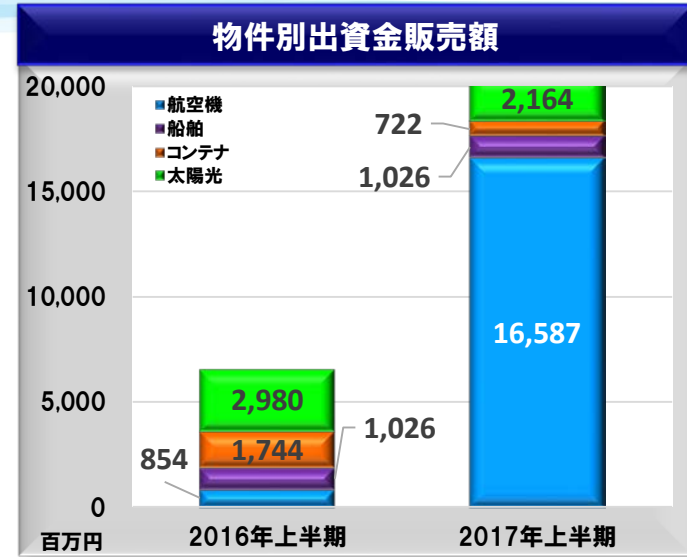
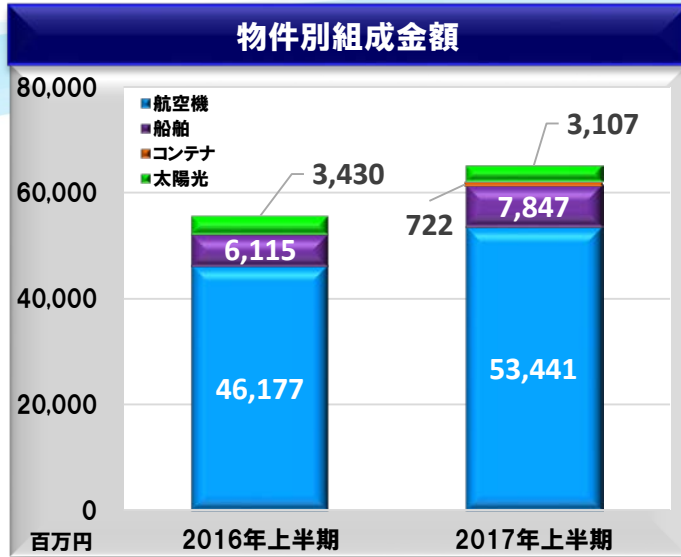
事業部門

事業セグメント	事業部門	売上高 (2016年上半期実績)	売上高 (2017年上半期実績)	増減率	
金融ソリューション事業	オペレーティング・リース事業	847百万円	2,306百万円	172.2%	
	環境エネルギー事業	276百万円	387百万円	40.5%	
	パーツアウト・コンバージョン事業 ※①	1,032百万円	395百万円	▲61.7%	
	その他事業 ※②	M & Aアドバイザー事業	37百万円	14百万円	▲61.8%
		プライベート・エクイティ投資事業			
		ウェルス・マネジメント事業			
		人材ビジネス			
メディア関連事業	メディア関連・IR支援事業 ※③	160百万円	152百万円	▲4.8%	
	合計	2,353百万円	3,256百万円	38.4%	

- ① 売上高は、2016年上半期はパーツアウト事業、2017年上半期はコンバージョン事業が計上されております。各事業での売上計上方法(総額計上とネット計上)が異なることより売上高減少するも、利益は約262百万円の増加となりました。
- ② その他事業の売上高減少は、M & Aアドバイザー事業において、案件が下半期にずれ込んだため、売上約22百万円減少したことが主な要因です。M & Aアドバイザー事業の当初予算は達成見込です。
- ③ (株)日本証券新聞社の売上8百万円減少が主な要因ですが、営業利益は4百万円増加しています。



2017年12月上半期 主な事業の組成・販売状況

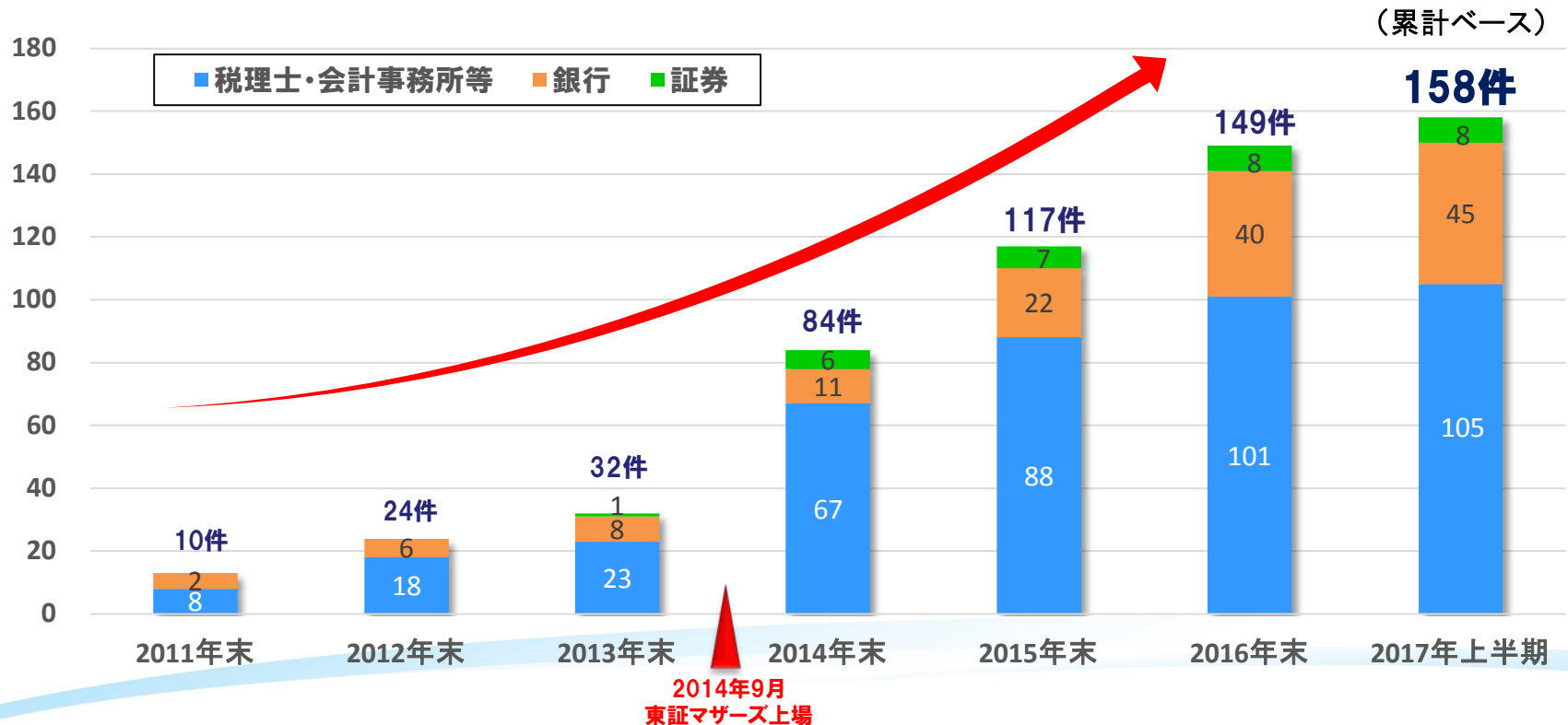


	飛行機		船舶		コンテナ		太陽光発電		合計	
	2016年上半期	2017年上半期	2016年上半期	2017年上半期	2016年上半期	2017年上半期	2016年上半期	2017年上半期	2016年上半期	2017年上半期
組成実績(件)	13	21	2	4	0	1	5	3	20	29
組成金額(百万円)	46,177	53,441	6,115	7,847	0	722	3,430	3,107	55,722	65,118
出資金販売実績(完売件数)	1	17	1	1	1	1	5	3	8	22
出資金販売額(百万円)	854	16,587	1,026	1,026	1,744	722	2,980	2,164	6,604	20,500

* 数値については、当期累計。また、案件数に関してはSPCの数をカウントしています。

販売ネットワーク (ビジネスマッチング契約先) の拡大

上半期において、税理士・会計事務所4事務所、地方銀行5行と新たなビジネスマッチング契約締結致しました。
この結果、累計提携先は税理士・会計事務所105事務所、地方銀行45行、証券会社8社と合計158件となりました。



2017年12月期上半期

3. 決算報告

2017年上半期 連結貸借対照表 概要

(単位：百万円)

	2016年12月期	2017年12月期 上半期	増減額		2016年12月期	2017年12月期 上半期	増減額
流動資産	26,808	39,826	13,017	流動負債	20,548	33,172	12,624
現預金	6,660	8,023	1,363	買掛金	8	7	△1
売掛金	3,040	2,863	△177	業務未払金	71	1,167	1,096
商品	1,344	394 ※①	△949	短期借入金等	18,024	29,717 ※⑥	11,693
商品出資金	11,016	18,417 ※②	7,401	前受収益	883	1,074	191
未成業務支出金	318	482	163	未払法人税等	800	416	△383
前渡金	789	2,863 ※③	2,074	その他	760	787	27
立替金	2,711	4,640 ※④	1,929	固定負債	890	908	18
その他	928	2,141 ※⑤	1,212	負債合計	21,438	34,081	12,643
固定資産	1,377	1,779	401	株主資本	6,640	7,452	811
有形固定資産	57	88	31	資本金	2,061	2,061	0
無形固定資産	56	43	△12	資本剰余金	2,003	2,003	0
投資その他	1,263	1,646	382	利益剰余金	2,775	3,587	812
繰延資産	8	7	-1	自己株式	△199	△200	△1
資産合計	28,195	41,613	13,418	純資産合計	6,756	7,531	774
				負債・純資産合計	28,195	41,613	13,418

- ① コンバージョン事業の商品1,344百万円を売却、パーツアウト事業の商品394百万円を計上し、商品在庫は949百万円減少しました。
- ② オペレーティング・リース事業における航空機案件19件(出資金総額18,417百万円)の匿名組合出資金であり今後販売予定の商品です。
- ③ 全額、コンバージョン事業のための前渡金です。
- ④ 主に今後の太陽光案件組成を積極的に行ったため、立替金が増加しました。
- ⑤ 航空機リース契約のための預け金377百万円の増加とコンテナファンド組成のための短期貸付金604百万円の増加が主な要因です。
- ⑥ 主に匿名組合出資金を一時的に引き受けるための借入金です。2017年上半期において積極的に案件組成を行ったため商品出資金が増加し、これに伴い短期借入金も増加しました。

2017年上半期 連結損益計算書 概要

(単位:百万円)

	2016年12月期上半期	2017年12月期上半期	増減	増減率(%)	2017年12月期通期予想	進捗率(%)
売上高	2,353	3,256	903	38.4%	7,700	42.2%
売上原価	1,103	861 ※①	-242	-21.9%	2,400	35.8%
売上総利益	1,249	2,395	1146	91.7%	5,300	45.2%
販売費及び一般管理費	620	610	-10	-1.6%	1,600	38.1%
営業利益	628	1,785	1156	183.8%	3,700	48.2%
営業外収益	35	169 ※②	134	382.1%	—	—
営業外費用	246	377 ※③	130	52.8%	—	—
経常利益	417	1,577	1160	278.0%	3,400	46.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	225	885	659	292.6%	2,100	42.1%

① パーツアウト・コンバージョン事業の売上は、2016年上半期はパーツアウト事業、2017年上半期はコンバージョン事業が売上計上されております。各事業によって売上計上方法が異なることより前年対比、売上高約637百万円減少・売上原価約882百万円減少しましたが、営業利益は約262百万円増加しました。

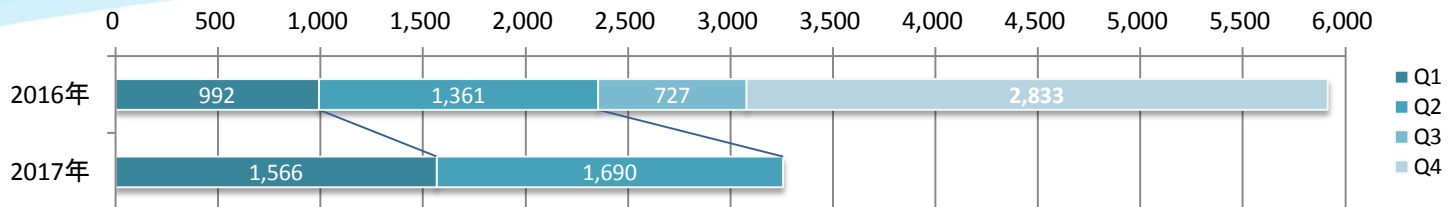
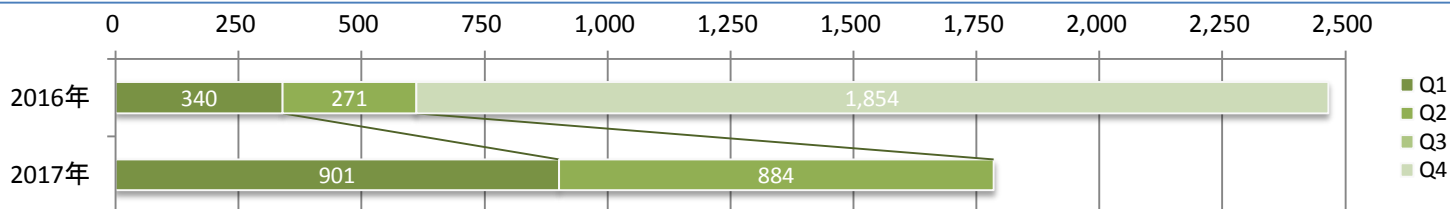
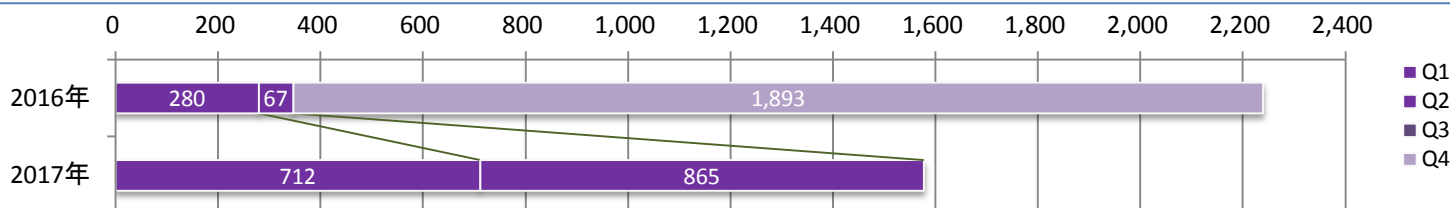
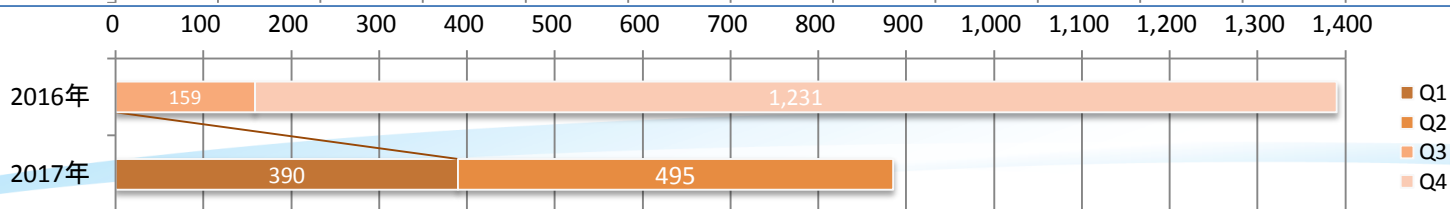
② 営業外収益の主な増加は、商品販売増加により商品出資金売却益が約88百万円増加したことが主な要因です。

③ 営業外費用の増加は、金融機関からの借入金に関わる支払利息約42百万円並びに金融機関への支払手数料約95百万円増加したことが主な要因です。

2017年12月期 連結損益計算書 概要

前年同期比較(2016年、2017年)

(単位：百万円)

売上高

営業利益

経常利益

当期純利益


2017年12月期

4. 通期業績予想

1. 主力事業のオペレーティング・リース事業は、レッシー及び投資家からの引き合いは旺盛であり、販売状況は順調。
2. 環境エネルギー事業は、利回り追求型商品へ移行し、より広範な顧客ニーズに対応することが可能となり、更なる成長が期待出来る。
3. パーツアウト・コンバージョン事業は、高い収益性が期待でき、Vallair Capital SAS社への追加出資を通じ、収益の向上に努めます。
4. 主要3事業に加え、M&Aアドバイザリー事業、プラベート・エクイティ事業、ITビジネス(特にフィンテック分野)等にも注力し、将来に渡り高い水準での増収・増益を目指します。

2017年12月期 通期業績予想

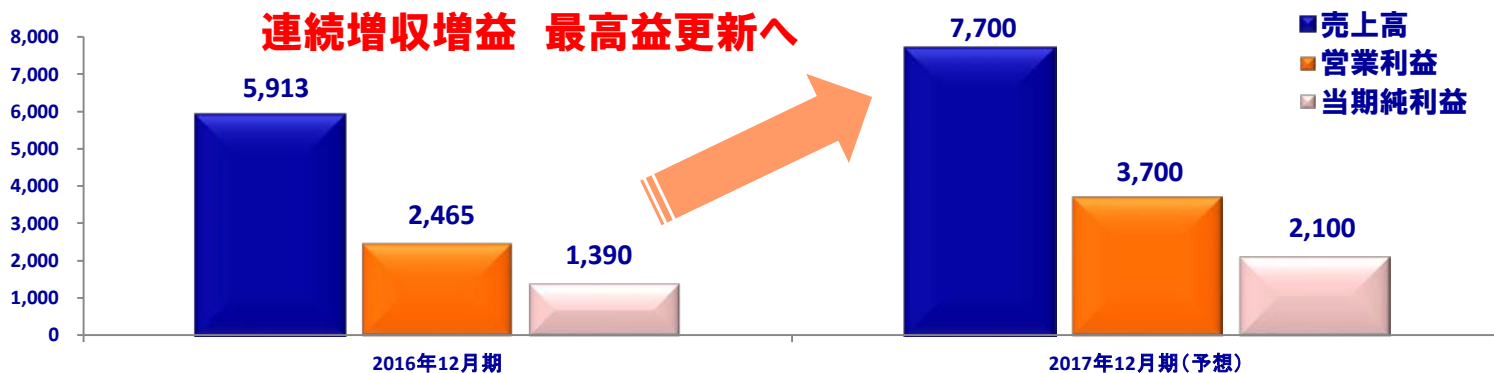
JIA

株式会社ジャパンインベストメントアドバイザー

業容拡大を推進し、連続の増収増益、最高益更新を目指します

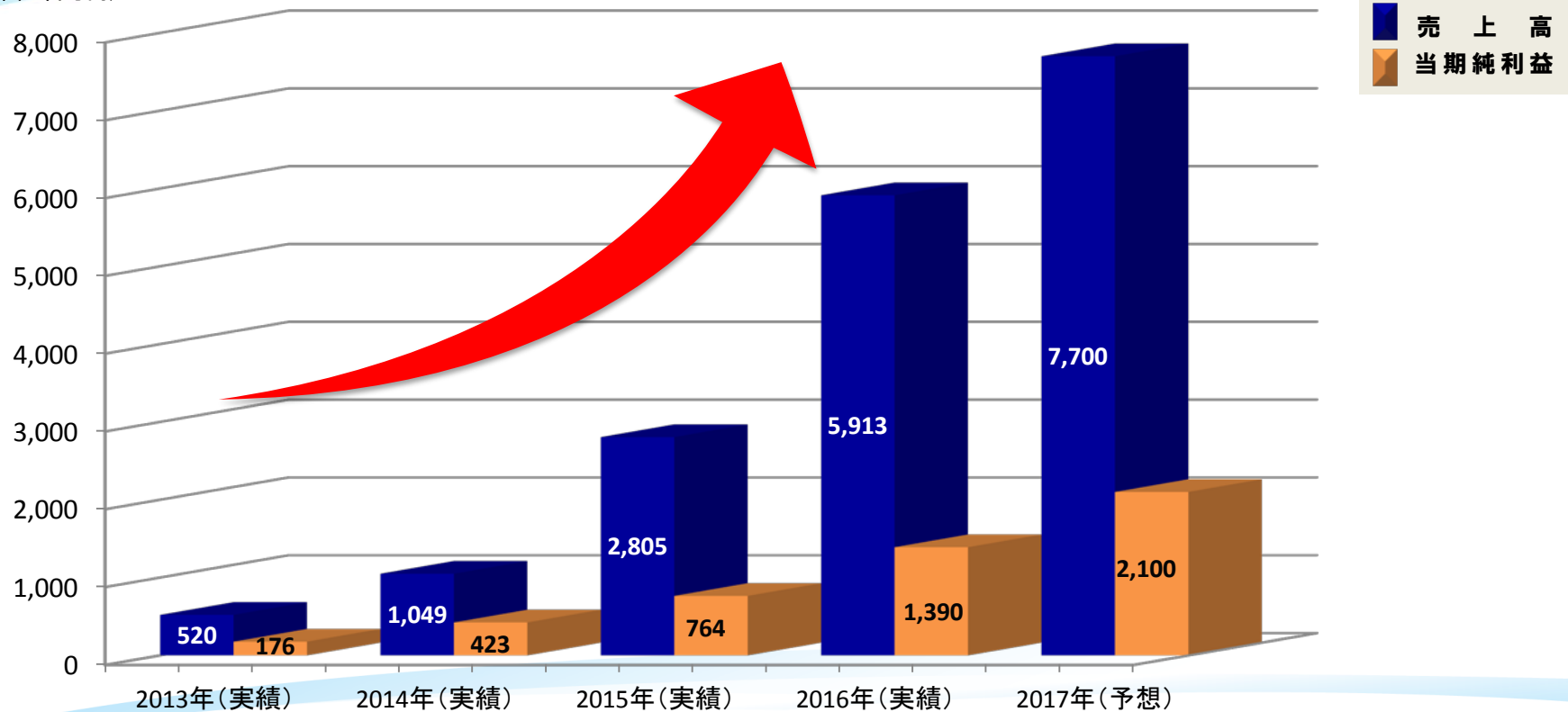
(百万円)	2016年12月期 (実績)	2017年12月期 (予想)	通期予想 増減額	通期業績予想 増減率
売上高	5,913	7,700	1,787	30.2%
営業利益	2,465	3,700	1,235	50.1%
経常利益	2,240	3,400	1,160	51.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,390	2,100	710	51.1%
1株当たり当期純利益	118円15銭	172円26銭*	54円11銭*	—

※新株発行、株式分割換算前



業績の推移

(単位:百万円)



■ 5. 直近の主なトピックス

主なトピックス①

◆ プライベート・エクイティ投資事業における新たな投資

2017年2月

Fits横濱株式会社の株式を第三者割当増資により取得、並びにIPOコンサルティングを受託

- ✓ 障がい児向けの児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業を展開しています
- ✓ IPOコンサルティング契約を締結し、将来的には株式上場を目指します
- ✓ 本件の出資を通じて社会課題解決の一助となり、かつ今後の成長も期待されます

◆ 環境エネルギー事業における新たな取り組み

2017年3月

株式会社テクノプランの株式を第三者割当増資により取得することを公表

- ✓ 当社は、バイオマスを利用して、革新的な濃縮・脱水・メタン発酵等の技術により、再生可能なエネルギーや有価物を製造する技術を有しています。これらの技術は、日本政府や自治体の補助事業として、産学官連携で開発され、経費削減保証(ESCO)事業を展開しています
- ✓ 安定的かつ経済的な環境エネルギー開発技術の普及を通じた社会への貢献と事業発展を目指します

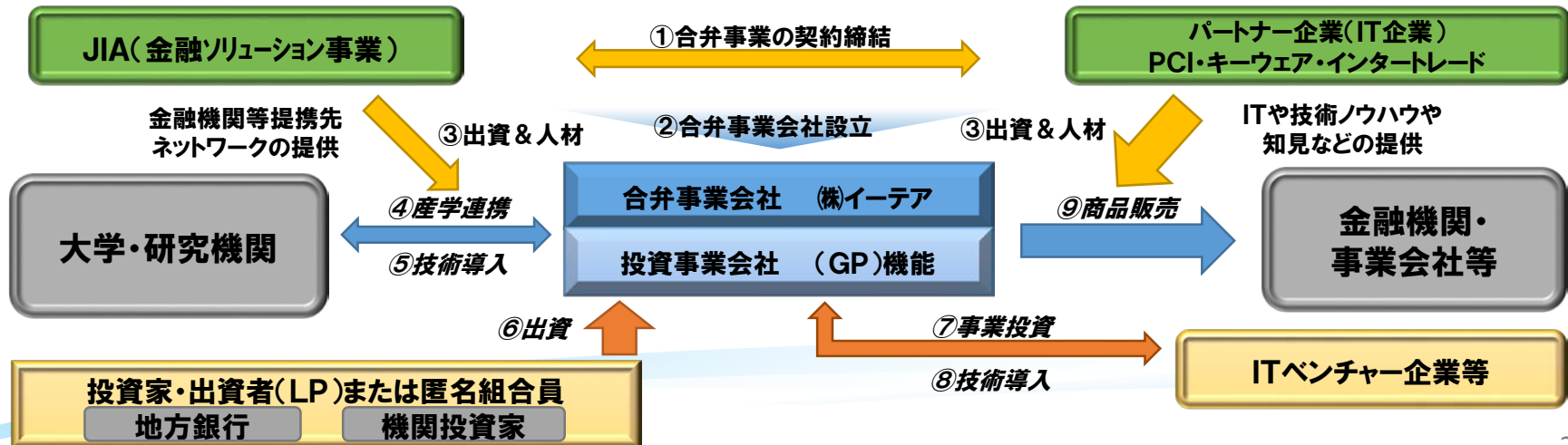
主なトピックス②

◆ 合併事業会社設立

2017年5月10日

合併事業会社(株式会社イーテア)設立

- ✓ 当社は、PCIホールディングス株式会社(東証第1部)、キーウェアソリューションズ株式会社(東証第2部)、及びインタートレード株式会社(東証第2部)、4社により、合併事業会社を設立しました
- ✓ 合併事業会社においては、AI(人工知能)やビッグデータ分析などの先進情報、通信技術を開発し、これらを用いる金融機関や機関投資家向けのソリューションを製品化し、販売します
- ✓ 技術を有する企業への事業投資を通じて最新技術の収集や本事業に関心のある金融機関等へ積極的に情報提供を行います



主なトピックス③

◆ ボーイング737MAX8を発注するための覚書締結

2017年6月20日

ボーイングが製造する航空機ボーイング737MAX8を10機発注するための覚書をボーイングと締結

- ✓ 10機のリストプライス^(注)は、総額約11億2千万ドル相当(日本円で約1,232億円)
- ✓ 当社として初めてボーイング新造機を直接購入しました
- ✓ 当社グループの運用する航空機アセットに新たな機種を加え、オペレーティング・リース対象資産のポートフォリオの拡大が期待されます

(注)リストプライスとは、カタログ価格と同意です。



◆ Arena Aviation Partners B.V.の連結子会社化

2017年7月6日

Arena Aviation Partners B.V.の株式を取得し、子会社化することを公表

- ✓ オペレーティング・リース事業における安定的な案件組成ルートを確保し、更に経年機体の出口戦略の多様化を図ることを目的に子会社化しました
- ✓ 優良案件の発掘から機体マネジメント、リース満了後の機体再販業務、更には退役後の機体のパーツアウト・コンバージョン事業にいたる航空機のライフサイクルのトータルマネジメントの強化・拡大が期待されます

主なトピックス④

◆ 新株式の発行及び株式売り出しの概要

1. 公募による新株式発行

(1) 発行した株式の種類及び数	当社普通株式 1,070,000株
(2) 発行価格	1株当たり 4,260円
(3) 払込金額	1株当たり 4,017.17円
(4) 払込金額の総額	4,298,371千円
(5) 資本金組入額	2,149,185千円
(6) 払込期日	2017年7月25日

2. オーバーアロットメントによる売出し

(1) 売出した株式の種類及び数	当社普通株式 160,500株
(2) 売出価格	1株当たり 4,260円
(3) 売出価格の総額	683,730千円
(4) 受渡期日	2017年7月26日

3. 第三者割当による新株式発行

(1) 発行した株式の種類及び数(上限)	当社普通株式 160,500株
(2) 払込金額	1株当たり 4,017.17円
(3) 払込金額の総額(上限)	644,755千円
(4) 資本金組入額(上限)	322,377千円
(5) 払込期日	2017年8月23日

※オーバーアロットメントによる売出しを行った株式数から安定操作取引及びシンジケートカバー取引に係る貸借株式の返還に充当する株式数を減じた株式数について、本件第三者割当増資に係る割当に応じる予定。

4. 総調達額【1(4)と3(3)の払込金額の合計額

(上限) 約49億円

5. 資金使途

- ・ オペレーティング・リース事業及び環境エネルギー事業における一時的な立替資金
- ・ パーツアウト・コンバージョン事業における退役航空機や部品の購入等の資金に充当する予定

6. 株主還元

2017年12月期 配当予想

中長期的には、連結配当性向20%以上を目指す

株主還元の基本方針（配当政策）

当社の利益配分方針は、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、株主の皆様への利益還元を重視し、安定した配当を継続していくことを基本方針としております。

2017年9月1日を効力発生日として当社普通株式1株を2株に分割することとし、平成29年12月期の期末配当予想を1株当たり5円00銭とさせていただきます。これを株式分割前1株当たり期末配当予想に換算いたしますと前回予想9円00銭から修正後10円00銭となり、実質1円00銭の増配となります。

基準日	1株あたり配当金(株式分割前換算)		
	第2四半期(中間)	期末	年間
今回修正予想	6円00銭	10円00銭	16円00銭
前回予想 (2017年2月8日公表)	6円00銭	9円00銭	15円00銭
前期実績 (2017年12月期)	4円00銭	6円00銭	10円00銭

(注)第2四半期(中間)の1株あたり配当金につきましては、株式分割前株式が対象となるため、1株当たり6円00銭の配当金となり、前回予想からの修正はありません。

*今後の業績の推移を勘案し、配当予想の修正が必要な場合には速やかに開示いたします。期末配当金につきましては、定時株主総会における承認可決が条件となります。

株主優待制度の概要

株主優待の内容

当社株式をより多くの株主様に中長期的に保有していただくことを目的として、株主優待制度を拡充。

(2017年9月1日株式分割に伴った変更あり)

(1) 対象株主	毎年12月末の当社株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された株主様を対象
(2) 割当基準日	毎年12月末日(年1回)
(3) 優待品	クオカード及び日本証券新聞デジタル版購読券
(4) 株主優待の内容	<p>進呈基準 (クオカード+日本証券新聞デジタル版購読券)</p> <p>継続保有期間1年未満</p> <p>100株以上2,000株未満 1,000円+日本証券新聞デジタル版1ヶ月購読券 3,000円相当</p> <p>2,000株以上 3,000円+日本証券新聞デジタル版3ヶ月購読券 9,000円相当</p> <p>継続保有期間1年以上2年未満</p> <p>100株以上2,000株未満 3,000円+日本証券新聞デジタル版3ヶ月購読券 9,000円相当</p> <p>2,000株以上 5,000円+日本証券新聞デジタル版6ヶ月購読券 18,000円相当</p> <p>継続保有期間2年以上</p> <p>100株以上2,000株未満 5,000円+日本証券新聞デジタル版3ヶ月購読券 9,000円相当</p> <p>2,000株以上 10,000円+日本証券新聞デジタル版6ヶ月購読券 18,000円相当</p>
継続保有期間の定義	継続保有期間とは、当社株式を保有していただいた継続期間のことで、株主名簿に記載された日から各基準日(毎年12月31日)までの継続して保有した期間をいいます。

7. 成長戦略

当社の強み

1. 商品開発力

顧客（投資家）ニーズに対応した商品の提供
オペレーティング・リース商品や太陽光ファンドでは、投資家ニーズを反映したオーダーメイドに近い商品を開発

2. 成長性

これまでの高い成長性の維持を目指す
当期純利益、2013年176百万円から2016年1,390百万円へ
（4年間 約8倍の増加）

3. 労働生産性

従業員1人当たりの営業利益は約41百万円
と高い労働生産性を確保 （2016年12月末現在）

当社の成長戦略について

- 1 **主力三事業(オペレーティング・リース事業、環境エネルギー事業、パーツアウト・コンバージョン事業)の更なる強化**
- 2 **取扱商品・サービスの拡充による最適な金融ソリューションの提供**
(M&Aアドバイザリー事業、プライベート・エクイティ投資事業・IPOコンサルティング事業、メディア関連・IR支援事業、事業承継コンサルティング事業等の展開)
- 3 **金融ソリューション事業とのシナジーが見込まれるIT・人材サービスに加え、AIを駆使した新たな金融サービス(フィンテック)の拡大**

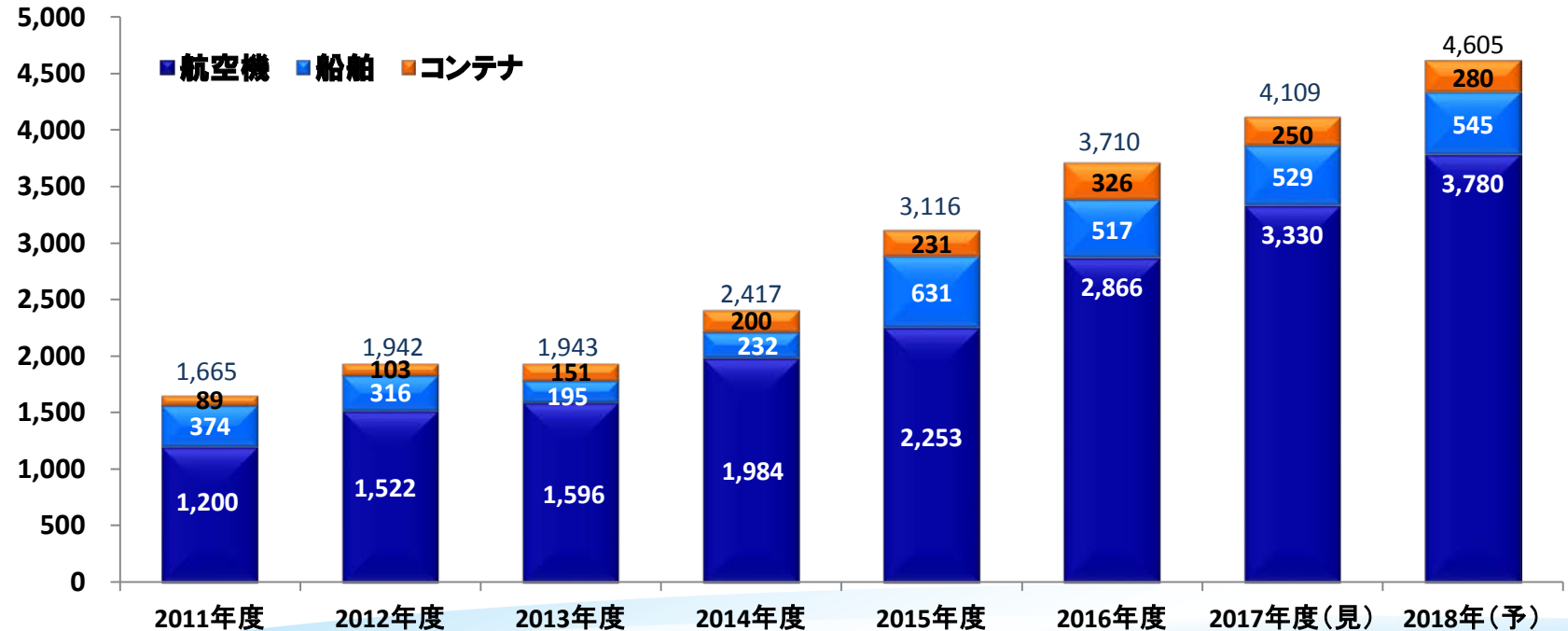
8. 参考情報

オペレーティング・リース市場規模の推移

マーケット状況(矢野経済研究所レポート[2017.4.3発行]より当社にて作成)

商品別市場規模(出資金総額)推移

(単位：億円)



注. 出資金総額ベース

注. (見)は見込値、(予)は予測値

注. 切り捨てのため、合計値は一部異なる

- パーツアウト事業とは、退役航空機の機体を解体し、その各部品を在庫管理し、世界中のユーザー（整備会社、リース会社、航空会社等）へ販売するもの。
- コンバージョン事業とは機齢の経った旅客機を輸送機等に改造しリサイクルするもの。

当該事業は、航空機のライフサイクルのトータルマネジメントを行う観点からも、高度な専門性により、より安全なポートフォリオ管理が可能となり、かつ高い収益性が期待できる事業であります。

Vallair Capital SAS社との資本業務提携により、既存事業とのシナジーを最大化

名称	Vallair Capital SAS (旧Valliere Aviation S.A)
所在地	フランス共和国シャトルー(Chateauroux)市
代表者の役職・氏名	President & CEO・Grégoire Lebigot
事業内容	パーツアウト・コンバージョン事業
設立年月日	2007年11月27日
出資額及び出資比率	7.5百万ユーロ(取得価額円換算:906.4百万円)、普通株出資比率:30%



Vallair社でのパーツアウト・コンバージョン事業風景

最近3カ年の経営成績と今期業績予想

決算期	2014年12月期	2015年12月期	2016年12月期	2017年12月期 (予想)
売上高(千ユーロ)	26,264	43,224	104,385	114,536
営業利益(千ユーロ)	1,811	3,385	5,604	8,852
経常利益(千ユーロ)	1,774	2,861	4,869	8,552
当期純利益(千ユーロ)	1,644	1,954	3,377	6,243

グループ会社概要

形態	名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)
連結子会社	JPIリースプロダクツ&サービス株式会社	東京都千代田区	50,000	航空機・海運コンテナ・船舶を主としたオペレーティング・リース事業	100.0
	JPO第1号株式会社	東京都千代田区	300	パーツアウト・コンバージョン事業	100.0
	JIALルクセンブルク	ルクセンブルク大公国	1,000千ユーロ	投資事業	100.0
	JPE第1号株式会社	東京都千代田区	300	投資事業	100.0
	BF・TEC株式会社	大阪府大阪市	38,700	環境エネルギー事業	91.2
	株式会社日本証券新聞社	東京都中央区	4,500	メディア事業	100.0
	株式会社日本証券新聞リサーチ	東京都中央区	10,000	メディア事業	100.0
	フィンスパイア株式会社	東京都港区	50,000	海運コンテナを主体としたオペレーティング・リース事業	100.0
	株式会社ジャパンM&Aアドバイザー	大阪市中央区	30,000	M&Aアドバイザー及びそれに付随する事業	100.0
	Arena Aviation Partners B.V.	オランダ王国	1,000ユーロ	航空機リースアレンジメント リースマネジメント 機体再販業務	49.0
持分法適用関連会社	あすかグリーンインベストメント株式会社	東京都港区	30,000	環境エネルギー事業	50.0
	フジ・エコ・テクノス株式会社	大阪市東住吉区	12,505	環境エネルギー事業	46.7
	Vallair Capital SAS	フランス共和国	13,793千ユーロ	パーツアウト・コンバージョン事業	30.0
	株式会社イーテア	東京都千代田区	100,000	フィンテック事業	37.0

2017年上半期 投資家説明会開催状況

◆ 上半期開催状況

2月	14日 23日	機関投資家向け説明会（公益社団法人日本アナリスト協会主催、兜町平和ビルにて） 個人投資家向け説明会（大和証券主催、大和証券新潟支店にて）
3月	21日	個人投資家向け説明会（SMBCフレンド証券主催、SMBCフレンド証券本社にて）
4月	6日 7日	個人投資家向け説明会（日本証券新聞リサーチ社主催、大阪朝日生命ホールにて） 個人投資家向け説明会（ひろぎんウツミ屋証券主催、ひろぎんウツミ屋証券本社にて）
5月	12日	個人投資家向け説明会（みずほ証券主催、みずほ証券仙台支店にて）

◆ 今後の開催予定

8月	3日 22・23日	機関投資家向け説明会（公益社団法人日本アナリスト協会主催、兜町平和ビルにて） 機関投資家向け説明会（日本証券新聞リサーチ社主催、シンガポールにて）
9月	5日 12日	機関投資家向け説明会（みずほ証券主催、ザ・リッツ・カールトン東京にて） 機関投資家向け説明会（大和証券主催、大和証券本社にて）
11月	24日	個人投資家向け説明会（みずほ証券主催、みずほ証券福岡支店にて）

本資料における注意事項等（Disclaimer）

- 本資料に掲載しているIR情報は、株式会社ジャパンインベストメントアドバイザー（以下、当社）の財務情報、経営指標等の提供を目的としておりますが、内容についていかなる表明・保証を行うものではありません。
また、本資料の情報の掲載は、投資勧誘を目的にしたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に掲載している情報に関して、当社は細心の注意を払っておりますが、掲載した情報に誤りがあった場合や、第三者によるデータの改ざん、データダウンロード等によって生じた障害等に関し、事由の如何を問わずに一切責任を負うものではありません。
- 本資料に掲載している情報の一部には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。

【IRに関するお問い合わせ先】 株式会社ジャパンインベストメントアドバイザー 広報・IR部
TEL: 03-6804-6805
URL: <http://www.jia-ltd.com/>